

各 位

2024年2月14日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

山小屋のリアルな日常が目につかぶ！
やまとけいこさんの名イラストエッセイ集 ヤマケイ文庫『黒部源流山小屋暮らし』刊行

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、ヤマケイ文庫『黒部源流山小屋暮らし』（やまとけいこ／著）を刊行しました。



◎角幡唯介さん推薦！

「岩魚と戯れ、ヤマネと遊び、時々客の相手をする。じつに楽しそうだ。こんな山小屋、私も暮らしたい！」

やまとけいこさんの名イラストエッセイ集、ヤマケイ文庫『黒部源流山小屋暮らし』がついに文庫になりました。

北アルプスの山小屋の中でも、黒部川の岸边という特殊な環境にある源流の小屋、薬師沢小屋。

働いて当時 12 年目だったやまとさんのリアルな山小屋ライフを、小屋開けから小屋閉めまでの時間軸に沿って、楽しい文章とイラストで紹介します。電波も届かない山奥で、どのような暮らしがあり、どのような出来事が起こるのか。

黒部源流と薬師沢小屋をこよなく愛する著者が、山小屋生活の苦労や困難、そして大自然の中で生きる喜びを鋭い感性で綴ります。

文庫化にあたり、支配人昇格後の書き下ろしの原稿と新規イラストを 80 ページ収録。

おわりにより——「山小屋の暮らしはまるで旅のようだ。毎日、何が起こるかかわからない。シーズンになれば、お客さんが入れ代わり立ち代わりやって来て、旅に出ずとも旅がやって来る、そんな感じだ。」

目次	
<p>第二章 薬師沢小屋開け 33</p> <p>入山 34 水事情 39</p>	<p>第一章 黒部源流のこと 21</p> <p>黒部源流と薬師沢小屋 22 山小屋創成期 29</p> <p>はじめに 18</p> <p>黒部源流概念図 2 薬師沢小屋見取り図 12</p>
<p>第四章 秋の源流と小屋閉め 138</p> <p>イワナの遡上 139 上ノ廊下と赤木沢 153 141 同居人ヤマネさん 161 物輪ヘリ三回目 166 魔のシルバーク 172 ご近所さん雲ノ平 177 秋の実りとキノコ中毒事件 183 薬師沢小屋閉め 177</p>	<p>第三章 ハイシーズン到来 99</p> <p>ハイシーズンと厨房事情 100 傾く小屋 93</p> <p>電気と電波 44 クマの被害 49 従業員十人十色 58 国立公園と山小屋 64 物輪ヘリ一回目 68 ネズミとの攻防 72 登山道整備と大東新道 77 増水と鉄砲水 82 布団干しと布団事情 90</p>
<p>第五章 支配人の日々 188</p> <p>さよなら小屋番 189 一年目の苦難 197 ヘリポートづくり 202 外作業 225 新人を抱えて 241 235 遭難救助要請 249 秋の休暇 258 薬師沢小屋物語 268 おわりに 266 文庫版あとがき 268</p>	



はじめに

子どものころから漠然と、どこか遠いところに行ってみたくて思っていた。ちよつとその辺、ではないどこか。宇宙とか砂漠とかアフリカの大草原、大海原。そんなところにはきつと、自分の価値観をひっくり返すような風景が広がっているにちがいない。二十歳になり美大に進むころになってもその思いは変わらず、絵を描きながら世界中を旅するのだ、なんて考えていた。

大学のサークル活動で選んだのはワンダーフォーゲル部。理由は高校生のとき、はじめて北アルプスの山に登ったことが大きい。上高地から徳沢を経て、長尾尾根の長い登りに息を切らし、蝶ヶ岳の山頂へ。いまでは見慣れてしまった河童橋からの風景も、山頂から眺めた穂高連峰の雄姿も、はじめて見たときには、日本にこんな風景があるのかと、歓声をあげたものだ。そして、いつかあの稜線を歩こうと心に決めた。

美大時代は、とにかく山に登ることが楽しかった。自分の絵の才能のなきにも、うんざりしていたのかもしれない。アトリエにいつもフラリとやって来る教授に、「絵を描くよりも山に登っているほうが楽しいのです」といったら、「あなた、それでいいんですよ！」と教授は大きくうなずいた。なるほどそうか、深いことをいうな、と

都合よく理解した。

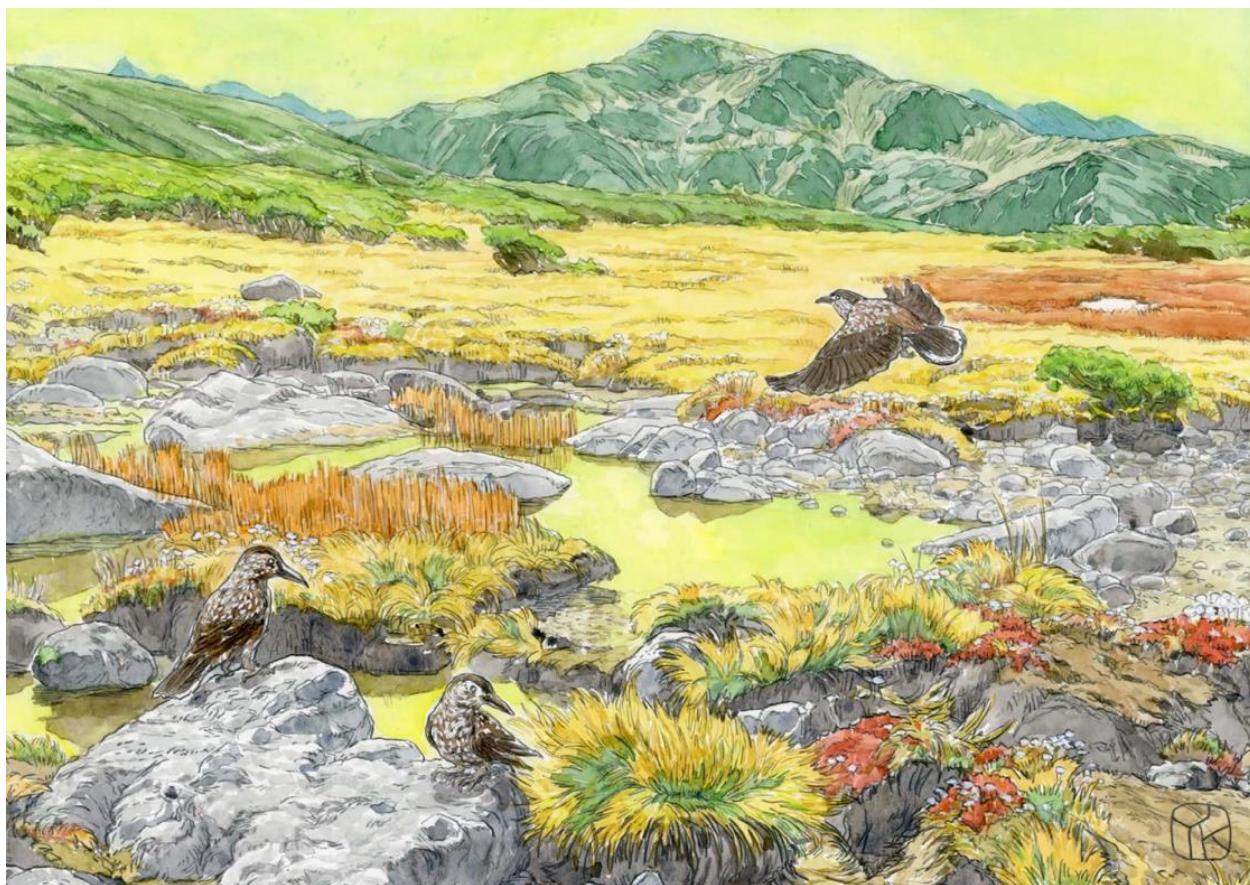
卒業してからも就職するつもりはなく、絵を描きながら世界中を旅したい、なんてことを大真面目に考えていた。美術造形のアルバイトをしながら、山登りを続けた。もともと溪流釣りの好きだった私は、今度は沢登りに夢中になった。源流に棲む大イワナの魚影を求め、渓谷を歩いた。稜線の縦走とは違う、山で生活するようなスタイルが面白かった。沢は生き物の匂いと生命力がブンブンしていた。当然、世界中を旅するはずのお金は一向に貯まらず、私は何かいい方法はないものかと、常々思案していた。

趣味と仕事を明確に分けられない



絵を描きながら世界を旅していた。日々は不安と好奇心の連続だった





黒部源流の大自然とそこに佇む薬師沢小屋の風景を切り取った、やまとけいこさんの優しく美しいイラストを豊富に掲載。

【内容】

黒部源流概念図/薬師沢小屋見取り図/はじめに

第一章 黒部源流のこと

黒部源流と約沢小屋/山小屋創世記

第二章 薬師沢小屋開け

入山/水事情/電気と電波/クマの被害/従業員十人十色/国立公園と山小屋/物輸へり一回目/ネズミとの攻防/登山道整備と大東新道/増水と鉄砲水/布団干しと布事情/傾く小屋

第三章 ハイシーズン到来

ハイシーズンと厨房事情/物輸へり二回目/バイオトイレと五右衛門風呂/遭難事故と山岳警備隊/常連さんと居候/釣りとイワナと私

第四章 秋の源流と小屋閉め

イワナの遡上/上ノ廊下と赤木沢/同居人ヤマネさん/物輸へり三回目/魔のシルバーウィーク/ご近所さん雲ノ平/秋の実りとキノコ中毒事件/薬師沢小屋閉め

第五章 支配人の日々

さよなら小屋番/一年目の苦難/へりポートづくり/外作業/新人を抱えて/遭難救助要請/秋の休暇/薬師沢小屋物語

おわりに

文庫版あとがき

※本書は2019年4月に発刊された『黒部源流山小屋暮らし』（弊社刊）に加筆修正のうえ、文庫化したものです。

【著者略歴】

やまとけいこ

1974年生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。高校生のときに初めて北アルプスを登り、山に魅了される。イラストレーター兼北アルプス薬師沢小屋従業員。東京都山岳連盟・東京YCC所属。溪流釣りや沢登り、山スキー、クライミングなど幅広くアウトドアに親しむ。2020年に、長年通い続けた憧れの富山に移住。立山連峰を眺めながら、新しい生活を始めたところ。イラストレーターとして、山と溪谷社、Foxfire、PHP研究所、JTBパブリッシングなどで作品を発表。美術造形の仕事では、国立科学博物館、福井県立恐竜博物館、東京ディズニールランド、藤子・F・不二雄ミュージアム、ほか多数で制作物を展示。黒部源流の自然と薬師沢小屋が、世界で一番好き。著書に本書ほか、『蝸牛登山画帖』がある。

【書誌データ】

書名：ヤマケイ文庫『黒部源流山小屋暮らし』

著者：やまとけいこ

定価：1100円（本体1000円＋税10%）

発売日：2024年2月14日

仕様：272ページ/文庫判/1色刷（カラー48ページ）

<https://www.yamakei.co.jp/products/2823049690.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：稲葉豊・宗像練

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>